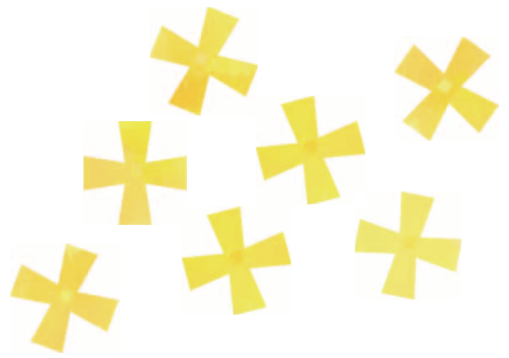


菜の花

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER



No. **63**
令和8年1月



令和7年度ソフトバレーボール大会

当院のロゴマークは、指宿市が誇る「菜の花」をモチーフとしています。

たくさんの黄色い円は花の部分を表しており、菜の花は小さな花が集まって1つの花を形成しているというように、病院のスタッフ1人ひとりが集まって、病院という組織があるのだということを表現しています。

緑の弧は菜の花の葉と、病院（花の部分）には新しい風が常に舞い込み、また病院が地域に新しい風を送り出しているという「風」のイメージを示しています。



contents

- P.2 2026年 新年のご挨拶
- P.3-4 第12回指宿医療センター市民公開講座
- P.5-6 第79回国立病院総合医学会が開催されました
- P.7 第78回指宿温泉祭にてハンヤ踊りに参加しました
- P.7 令和7年度ソフトバレーボール大会
- P.8 事務部門フィロソフィを策定しました
- P.9 指宿 菜の花通信
- P.10 外来診療担当医一覧

理念

患者さまにやさしく、

地域に信頼される

良質な医療の提供をめざします。

運営方針

- 1 がん診療の治療の向上をめざします。
- 2 成育医療の充実をめざします。
- 3 救急医療の充実をめざします。
- 4 地域医療機関との連携を図り、説明と同意に基づいた安全で質の高い医療をめざします。



2026年

新年のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

今年も指宿医療センターが地域中核病院としての役割を果たせるよう精進しますので、ご支援とご協力を宜しくお願い致します。

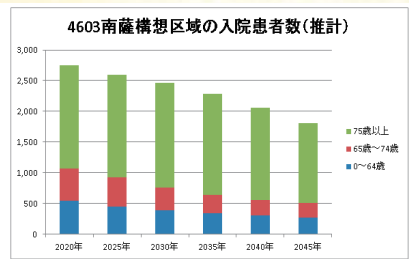
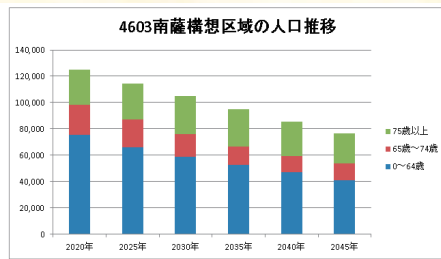
当院の昨年1年間を振り返りますと、5月：職員合同宿泊研修、8月：指宿南九州消防組合との事後検証会及び暑気払い、9月：指宿ハンヤ踊り、10月：職員合同ソフトバレーボール大会、11月：金沢での国立病院総合医学会で当院職員6名が発表。11月22日：市民公開講座は「知っておきたい消化器のがん」をテーマに234名の参加がありました。12月：電子カルテを更新いたしました。

さて、昨今の病院経営は全国的に厳しい状況が続くため、厚生労働省は財政支援としての2025年度補正予算を計上しました。さらに2026年度診療報酬改定で入院基本料の10%以上の引上げが実行されることを切に望みます。また、地域包括医療病棟の基準緩和も是非実行して頂きたいと思っております。

全国的に高齢化が進む中、地域医療の内容は個々の病院で異なります。南薩医療圏における人口推移は、65歳以上の高齢者に比べ65歳未満の人口減少が顕著です。一方、入院患者の推計では高齢者、特に75歳以上の減少は比較的緩やかです。当院で受入れる救急患者の80%が60歳以上で入院患者の平均年齢は70歳です。また、地域で出動する救急車の約40%を当院で受入れており、応需率90%以上を維持しています(グラフ参照)。2040年を見据えて当院がなすべき医療は、高齢者救急といっても過言ではありません。

成育医療も当院の重要な役割のひとつです。しかし、直近5年間で出産数が半減しました。産科施設は30分以内に緊急帝王切開手術ができる体制が必要です。麻酔科医師の常駐が必須ですが、現在、常勤麻酔科医師1名と関東方面と宮崎からの応援医師により体制を維持しており、経営面ではかなり厳しい状況です。

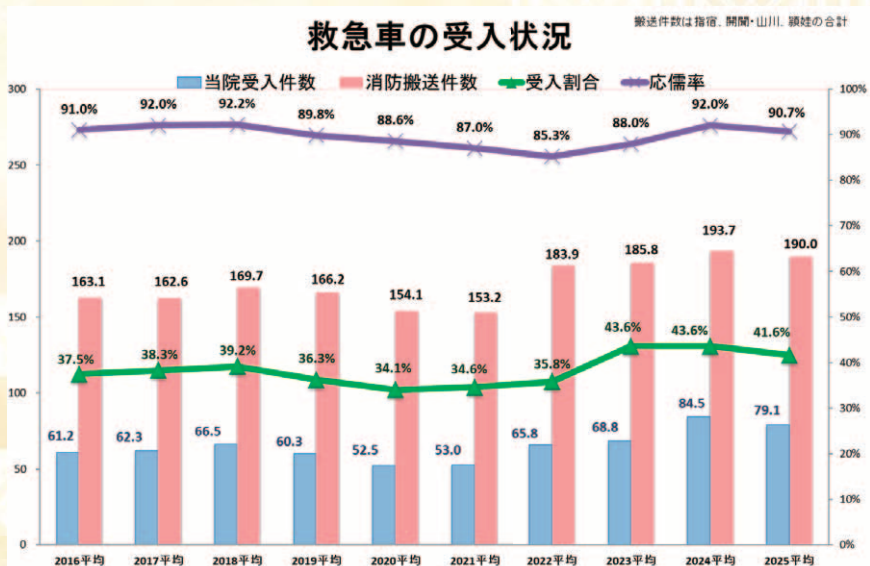
安心して出産、子育てができ不安のない老後を送れる街づくりのためには、地域中核病院の存続は重要です。今年度の診療報酬改定に期待するとともに地域医療に関する踏込んだ議論が地域社会でも必要だと思います。



(鹿児島県保健医療計画より)



院長
鹿島 克郎



第12回指宿医療センター市民公開講座

令和7年11月22日(土)、指宿市民会館 大ホールにおきまして、第12回指宿医療センター市民公開講座「知っておきたい消化器のがん」が開催されました。
当日は234名の市民の皆様にご来場いただきました。



講演
1

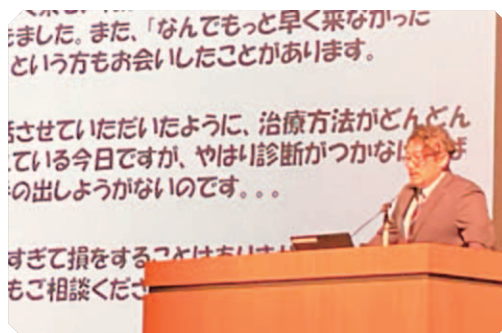
「知って安心! 消化器がんの3つのポイント-予防・早期発見・最新治療-」

講師：指宿医療センター 外科医長 鮫島 一基

今回私は「消化器癌の3つのポイント-予防・早期発見・最新治療-」というテーマでお話させていただきました。実際に私達の現場でよく遭遇する多くは「症状がなかったから病院に行かなかった」とか「内視鏡検査はしたことない」という方々が多いです。症状が無くても癌は身を潜めていることが多いです。ただ、治療について様々な選択肢の中から最良の手が選べます。しかし症状が出るほど育つと、選択肢が減ってしまい、我々もなかなか手を出せなくなるのです。

今回のお話の中で、手術動画も供覧しましたが、今日の外科医療は以前と比べて、傷がかなり小さくなり、早期退院も可能なほど侵襲も低くなりました。技術や機械の面でも進化・発展しました。ですが、いくらそのように技術や道具が良化しても進行しすぎた癌は、切っても再発のリスクが高いため、「根治」が望めなくなってしまいます。

よく私は入院される患者さんに「あなたが頑張ったから良くなったんだよ。」と言いますが、患者さんは「先生のおかげ」と言ってくれます。ですが、前述のように私達の治療技術だけでは治療は成立しません。皆さんの病気に対する予防のための努力や、早期発見のための検査の検討なども必要です。今回の私の話が皆さんの健康の一助になればと思います。困ったらいつでも当院にいらしてください。我々も全力でお応えします。



講演
2

「沈黙の臓器からのSOS-気づきにくい膵がん・胆道がんを知る-」

講師：指宿医療センター 消化器内科医長 豊留 孝史郎

先日は多くの皆様にご来場を頂きまして、誠にありがとうございました。今回の市民公開講座では、「沈黙の臓器」と呼ばれる膵臓と胆道に生じるがんについてお話ししました。

これらの臓器は体の奥深くにあるため、初期には症状が出にくく、見つかった時には進行していることが少なくありません。膵臓がん・胆道がんはいずれも予後の厳しいがんですが、早期に発見できれば治療の選択肢が広がり、予後の改善も期待できます。

注意すべきサインとして、皮膚や白目が黄色くなる黄疸、褐色の尿、白っぽい便、みぞおちや背中での痛み、急な体重減少、突然の糖尿病発症などが挙げられます。こうした症状がある場合は、ためらわず医療機関を受診してください。また、発症リスクとして、喫煙、飲酒、肥満、糖尿病、家族歴、膵嚢泡などが知られておりますので、日頃的生活習慣の見直しや、年1回以上の健康診断や腹部超音波検査などもご検討いただければと思います。

今回の講座が、皆さまの健康意識を高め、早期受診と予防につながるひとつのきっかけとなれば幸いです。





講演 3 「食事とがんについてーがんを遠ざけるためにー」

講師：指宿医療センター 栄養管理室長 高城 佳奈子

三連休の初日にも関わらず多数の方にご来場頂きましてありがとうございました。

今回の市民講座のテーマが「消化器のがん」ということで、食事で少しでもがんを予防できるか…私も改めて勉強し直す機会となりました。現在はがんも生活習慣病の一つと言われるほど私たちの食生活と密接に関係しています。「これを食べたらがんにならない」というような食品があれば良いのと思いますが、そのような魔法の食品は無く「いろいろな食品をバランスよく適量に」「少しの我慢と節制」がやはり大切だと感じます。また、がんと闘っている皆さま、支えている皆さまに向けても少しだけお話をさせて頂きました。完全に予防することが難しい病気ですが、楽しいはずのお食事が苦痛とならないように、ずっと食事を美味しいと感じる身体でいられるように、管理栄養士として皆さまとともにがんばっていかれたらと思います。



講演 4 「がん相談支援センターについて ~患者相談窓口のご紹介~」

講師：指宿医療センター 医療ソーシャルワーカー 林 大作

患者さんは、がんの検査や治療を受ける際に不安や疑問を抱えたり、療養生活を送る上で困りごとが発生することがあります。その際は、がん相談支援センターの相談員（看護師や医療ソーシャルワーカー）に相談して頂きたいと思います。相談員が専門的知見を基に、患者さんの疑問や不安を解消したり、困りごとの解決に向けた支援を行います。また、「何を相談したら良いかわからないけど、何かモヤモヤする」という状態でも、相談員が話を伺いながら、考えを整理するお手伝いをさせていただきます。

当院に通院中の患者さんやそのご家族だけでなく、どなたでも相談可能です。相談は無料で秘密は厳守致します。対面若しくは電話で相談して頂くことが可能です。

皆さんや皆さんのご家族が、がんの疑いがあると言われたとき、がんの診断を受け治療や療養生活を送るときなど、病気や生活に疑問や不安を感じた際は、お気軽に当院のがん相談支援センターにご相談下さい。



第79回 国立病院総合医学会が 開催されました

『輪・環、そして和 —未来への「わ」の創成—』をテーマに令和7年11月7日(金)・8日(土)に金沢市で第79回国立病院総合医学会が開催されました。

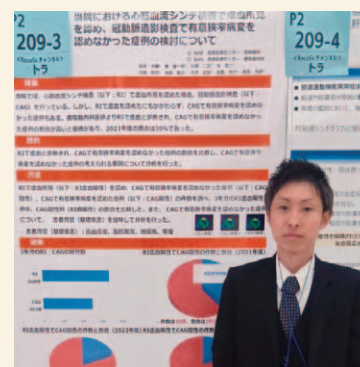
当院からは6名が発表いたしましたので、紹介いたします。



第79回国立病院総合医学会に参加しての感想

放射線科 RI検査主任 永谷 大輔

第79回国立病院総合医学会で「当院における心筋血流シンチ検査で虚血所見を認め、冠動脈造影検査で有意狭窄病変を認めなかった症例の考えられる要因について」ポスターにて発表を行いました。本研究は循環器内科と放射線科の共同研究です。今回で4回目の発表となりましたが、多くの質問を頂戴し、意見交換を通していろいろ学ぶことができました。発表で学んだことや課題を今後の業務に活かしていきたいと思えます。ご協力をいただいた循環器内科及び放射線科の皆様方に感謝申し上げます。



第79回国立病院総合医学会に参加して

庶務班長 山並 公彦

今回「事務部勉強会及びExcel勉強会の効果について」というテーマでポスター発表をさせていただきました。当院では昨年度より、他の系の業務を知る機会や発表の機会を設けることやExcelにおける関数等を学ぶことで業務の効率化を図ることを目的として事務部勉強会及びExcel勉強会を実施しており、その結果を発表させていただきました。

当日は、ポスター貼りに他施設の事務部長に協力いただいたり、本当に多くの方にご協力いただきました。

また、学会では他施設の取り組みを聴講することもでき、大変有意義な学会参加となりました。

今回学んだことを活かし、今後も学習する組織・心理的安全性の高い職場の構築に寄与していきたいと思えます。

最後に、発表するにあたり、ご指導とご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。



第 79 回国立病院総合医学学会に参加して

医療安全係長 (看護師長研究会) 松元 恭子

今回、看護師長研究会で取り組んだ「A 病院看護師のクリティカルシンキングとリスク感性の関連性」というテーマでポスター発表を行いました。日々の看護実践の中で、看護師が医療安全についてどのような思考過程の中で行動に移すことができているか、看護研究を通して示唆を得ることが出来ました。経年別でのクリティカルシンキングについて質問もあり、興味を持ってもらえたのではないかと感じました。引き続き研究に取り組み、安全・安心な医療、看護を提供できるように人材育成に努めていきたいと思ひます。



第 79 回国立病院総合医学学会に参加して

4 病棟看護師長 西園 里美

今回「鹿児島県指宿市 ACP 普及プロジェクトへの取り組み (第 1 報)」という演題でポスター発表をさせていただきました。指宿市の医療介護施設における ACP の現状から現在まで取り組んだ研修会の開催結果を報告し、今後の展望についても発表することができました。他施設の発表においても院内での ACP について研究的に取り組んでおり、意思決定支援の重要性について改めて考えることができました。学会での学びを活かし、引き続き指宿市 ACP 普及プロジェクトを推進していきたいと思ひます。発表にあたりご協力いただきました皆様方に感謝申し上げます。



第 79 回国立病院総合医学学会に参加して

リハビリテーション科 作業療法士 竹下 晃

第 79 回国立病院総合医学学会にて、「けいれん重積型急性脳症の予後の特徴に関する研究」という内容で口述発表をさせていただきました。研究は分析症例数の課題もあり、目的の一部を明らかにできたという内容となりましたが、発表後にはけいれん重積型急性脳症の患者様の継続した支援につながる意義があるとの言葉をいただきました。研究内容は前任地でのものになりますが、内容についてご指導、ご助言いただきました当院スタッフの皆様方に感謝申し上げます。今回の研究や発表の経験を当院における研究内容の充実にいかしていきたいと思ひます。



第 79 回国立病院総合医学学会に参加して

4 病棟 副看護師長 原口 彰太

第 79 回国立病院総合医学学会にて「病院に勤務する看護師のワーク・エンゲイジメントに関する研究 - 副看護師長の支援がワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響」という内容で口演発表を行いました。少しでもスタッフが働きやすく、目標をもって働き続けられる環境を作りたいという副看護師長会の思いから研究を始めました。アンケートは項目が多かったのにも関わらず回答していただいた方は本当にありがとうございました。副看護師長として、スタッフのワーク・エンゲイジメント向上に貢献できるようこれからも努めていきたいと思ひます。看護研究にご協力いただいた皆様方に感謝を申し上げます。



第78回指宿温泉祭にてハシヤ踊りに参加しました

副看護部長 池田 智子

毎年恒例の「指宿温泉祭り」に、当院からも職員とそのお子さんたちが参加しました。当日は、子どもたちの元気な声と笑顔が加わり、とても賑やかで温かい雰囲気になりました。指宿市民がそれぞれ工夫を凝らした仮装やアレンジを楽しみながら踊る姿も印象的で、会場全体が一体となって盛り上がりました。

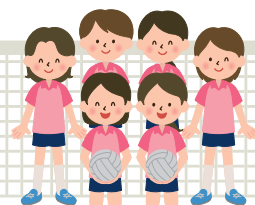
当院の参加者は、指宿医療センターの赤いハッピをまとい、「指宿医療は日本一！」のかけ声を合わせながら、途中、小雨が降る中でも最後まで力いっぱい踊りきりました。職員同士の団結はもちろん、市民の皆さまと交流を深められる貴重な機会となりました。

さらに、今年なんと「踊りが素晴らしかったで賞」を受賞するという嬉しい結果にも恵まれました。参加した職員の皆さま、また地域の皆さまに心より感謝いたします。



令和7年度ソフトバレーボール大会

契約係 藤原 李紅



10月31日に職員レクリエーションとしてソフトバレーボール大会を開催いたしました。私は、実行委員として準備段階から当日の運営まで携わり、無事に大会を終えることができ安堵と達成感を覚えています。3回目となる今回は、例年にも増して各チームの連携が洗練され、随所に高度なプレーが見られるなど、全体の競技レベルの向上を強く実感しました。

また、職員のお子さんも来場してくださり、元気いっぴいの声援を送ってくれたことで、会場の熱気は一段と高まりました。プレーが決まるたびに大きな声援が響きわたり、会場全体が活気に満ち、職場全体の一体感や連帯感を改めて感じられる時間となりました。

準備を進める中では不安もありましたが、参加者の皆様のご協力と温かい雰囲気に支えられ、開催できて本当に良かったと心から思いました。今後も職員同士の交流を深められる場づくりに努めていきたいと思っております。ご参加・ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。



開始前の準備運動



鹿島院長の強烈なサーブ

事務部門フィロソフィを策定しました



事務部長 内戸保 雄一

きっかけ

令和7年5月23日～24日に当院において、職員合同宿泊研修を開催し、初日は池田宜永都城市長に「都城フィロソフィ」についてご講演いただきました。

「都城フィロソフィ」とは、人材育成による組織活性化を進め、市民の幸福と市の発展を実現するための重要な**人材育成指針**です。

翌日は、多職種の職員とともに「指宿医療センターフィロソフィを考える」というテーマでグループワークを行い、事務部門からも多数参加し大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回の研修で感じたこと、また、同時期に示された「独立行政法人国立病院機構事務部門人材育成ビジョン（以下、「人材育成ビジョン」という）」を根本とした、当院独自の「**事務部門フィロソフィ（人材育成指針）**」を作ってみようということになりました。

策定まで

当院の常勤事務職員は事務部長を含め12名の少数精鋭部門です。少ない人数で実践可能なフィロソフィにしたいと考え、人材育成ビジョンの「目指す職員像」を参考に当院事務職員が目指すべく職員像を皆で考え、15種類の目指す職員像を作りました。

その後、事務部長とのワンオンワンミーティングで、15種類の目指す職員像から1つを選択し9月末までその目指す職員像を意識しながら業務を行い、アンケートを実施、アンケート結果を事務職員にフィードバックしました。

まとめ

今回、アンケートを通じて感じたことは、事務部門フィロソフィの中にある【**相手の話を聞く傾聴の精神を持ち、相手に共感しその考えを理解できること**】がとても重要だと感じました。

都城フィロソフィには、「人と接するときには、積極的に相手の話を聞く傾聴の精神を持つことが重要です。相手の意図をくみ取り、相手が何を望んでいるかを知ることからコミュニケーションが始まります。相手が考えの異なった主張をしても、一刀両断に切り捨てることなく、相手に共感しその考えを理解することで、新たな視点から物事を見つめなおすことができるようになり、さまざまな改善のヒントを得ることができます。」と記載されています。

この傾聴と共感を意識することで、コミュニケーション能力も向上すると思っています。当院事務職員には、令和7年10月～令和8年3月までこの【相手の話を聞く傾聴の精神を持ち、相手に共感しその考えを理解できること】を意識して業務に取り組んでもらい、再度アンケートを実施し意識の変化を確認したいと思っています。また、事務職員には、【ファーストペンギン】（リスクを恐れず新しいことに挑戦する）にも挑戦してみようとも伝えています。

我々事務職員は、

【ファーストペンギンになる人】+【みんなで傾聴・共感できる環境】

=【コミュニケーション向上】→【心理的安全性の高い職場（風通しの良い職場）】

を目指して頑張っていきたいと思っています。





田舎医者流儀 (263)・・・ノーベル賞

農園の金木犀が先週咲き、今週散ってしまった。大きな木が4本あり、花が咲き誇っていたので匂いがしたはずである。しかし、残念ながらこの年のわが鼻は感じてくれなかった。今週になり、シイタケが大きく育ち、収穫して食べた。おいしかった、あと20~30個は収穫できそう。先週ブロッコリーの苗を3本、ネギの苗を30本ぐらい植えた。収穫の楽しみがある。



10月はノーベル賞ウィーク、日本からノーベル生理学・医学賞に坂口志文大阪大特任教授、化学賞に北川進京都大特別教授の2人が選ばれた。坂口教授は過剰な免疫反応を抑える制御性T細胞の発見と免疫疾患における意義を解明したことが評価された。北川教授は「金属有機構造体(MOF)の開発が評価され、MOFはさまざまな気体を貯蔵でき、環境や産業など幅広い分野への応用が期待されるという。

同じ年に京都大学に入学した2人は在学中、大学紛争の影響をうけた。授業や試験がなくなることもあり、幅広い分野の本を読んだり、さまざまな語学を勉強したりし「余裕があった」(北川さん)という。北川さんは大学時代に出会った、中国の思想家荘子の「無用の用」という考えが今の研究にもつながっているという。絵画が趣味の一つである坂口さんも「科学と芸術は似ている」とし、文系分野も広く知っておくことが科学をより豊かにするために大切だと言う。その上で「若い人には広く興味を持って勉強する時期が必要と呼びかけた。

ノーベル賞 受賞数では日本は米国、英国、ドイツ、フランスに続いて世界第5位にランクされている。大国と言われているロシアは旧ソ連時代を含めて日本の半分程度である。世界第2位の経済大国にのし上がった中国はと言えば、中国国籍を有している人を含めて生理学医学と文学、それに平和賞の3個である。

当たり前だが、坂口教授の研究は一朝一夕に実ったわけではない。「制御性T細胞(Tレグ)を同定できたのは、1995年にその細胞だけが表面に発現している特有の分子マーカーを突き止めたことが出発点となった。1980年代初頭から、私は制御性T細胞の存在を確信していたが、その分子マーカー探しは難航を極めた。15年に及ぶ研究の積み重ねによって、1995年に制御性T細胞の分子マーカーをようやく特定することができた」。おそらく研究を始めて40年位かかっているだろう。その間、多くの否定的な見解にも遭遇したであろうが、新しい物との出会いが研究を推進するエネルギーになったのだろうか。(免疫の守護者制御性T細胞とはなにか 坂口志文・塚崎朝子著 講談社)

私は昭和44(1969)年医学部を卒業し、医師としての修練を始めた。恩師の佐藤教授は顔を合わすと学会に発表しろ、論文は出来たかとはっぴかけられた。私の過ごした大学病院・医局の時代は博士号を取るための研究をするのが当たり前であった。そうした雰囲気の中で素晴らしい研究も生まれた。例えば、坪内博仁博士(元鹿児島大大学院医歯学総合研究科教授)と当時の第二内科坪内グループが1986年に劇症肝炎患者血清からのヒトHGFが精製に成功し、国際的にも高く評価された。

私が大学に在職した1990年代前半までは大学病院にいる限り研究し、学会・論文発表は当たり前で、日本中の大学病院・医学部で同様であり、研究者の裾野が広がった。その中で立派な研究者が育ち、研究業績も上がった、それが現在のノーベル賞につながっていると思う。最近、地方大学の研究予算は著しく削減され、研究活動が困難になっている。裾野の縮小は我が国の科学研究の発展を阻害しなければ良いかと心配している。

指宿医療センターHP菜の花通信

<https://ibusuki.hosp.go.jp/topic/nanohana-tweet/>



外来診療担当医一覧

令和8年1月1日現在

診療科等		月	火	水	木	金	備 考
循環器内科	午前	鹿 島	吉 重	鹿 島 水 田	大 井 井 畑	鹿 島 吉 重	
総合診療内科	午前	大 井 花田(血液内科)	田 中	有 馬 (血液内科)	花 田	中 村	
消化器内科	午前	豊 留	(休 診)	今 村	豊 留	若 松	
肝臓内科	午前		大 重		大 重		
小 児 科	午前	荒 武	田 邊	田 邊	関	田 邊	午前診療：8時30分～11時 午後診療：14時～16時 予防接種 (毎週月曜・火曜・木曜) 受付 14時 (要予約) 一ヶ月検診 (月・木) 受付 13時 (要予約) 3～4・7～8・9～11ヶ月・1歳児健診 (火曜) 受付 13時45分 (要予約)
	午後	外来	荒 武	荒 武	関	荒 武	
		予防疫種	田 邊	関	田 邊	関	
健診	関	関	関	関	関		
外 科	午前	(手術日)	宮 藺 島 鮫	宮 藺 島 鮫	(手術日)	予約外来 (手術日)	
泌尿器科	午前	栞 木	(手術日)	栞 木	栞 木 (再診のみ)	栞 木	
腎臓内科	午前					外部医師	17番診察室にて診察します。 10:00～ (要予約) ※第1週～第4週金曜日のみ
産婦人科	午前	櫻 中 井 尾	松 中 下 尾	(手術日)	櫻 松 井 下	櫻 井 中尾・松下	1ヶ月健診 (月・木曜日：要予約) 2週間健診 (月・火・木・金：要予約) 午後診療受付 (水・金曜日以外) 13時30分～15時 (再診のみ) 母乳外来 (毎週火・木曜日) 母親学級 (毎月第2・3水曜日) 金曜の診療については、奇数週は中尾、偶数週は松下が診療を行います。
	午後	櫻 中 井 尾	松 中 下 尾 助産師 母乳外来	助産師 母親学級	櫻 井 松 下 助産師 母乳外来	(手術日)	
眼 科	午前	尾 辻 米 満	尾 辻 米 満	尾 辻 米 満	尾 辻 米 満	尾 辻 米 満	月曜・火曜・水曜は午後から手術のため受付は午前10時までとなります。
	午後	(手術日)	(手術日)	(手術日)	(特殊外来)	(特殊外来)	木曜・金曜の午後は特殊外来 (視野検査、レーザー治療、造影検査、硝子体注射など)
専門外来	午前	呼吸器内科	小児外科		脳神経外科		呼吸器内科 毎週月曜日 予約制 呼吸器外科 毎月第2・4木曜日 (14時～16時) 予約制 小児循環器 毎週月・木 (14時・15時) 要予約 ※毎週火は16時のみ要予約 小児外科 毎月第3火曜日 (9時45分～14時30分) 要予約 もの忘れ外来 第2・第4水曜日 (14時～16時) 要予約 脳神経外科 毎週木曜日 (9時～11時・14時～15時30分) 心臓血管外科 毎月第1・3木曜日 (14時～16時) 予約制
	午後	呼吸器内科 小児循環器	小児外科 小児循環器	もの忘れ 外来	小児循環器 呼吸器外科 脳神経外科 心臓血管外科		
内 視 鏡 検 査		今 村 村 松	豊 留 今 村	豊 留 村 松	藤 井 今 村	赤 崎 留 留	第2・第4木曜日 藤井
整形外科	午前			織 田		織 田	水曜日・金曜日 9時～17時 受付 (織田先生) 9時～11時・14時～15時30分 鹿大医師 (水)・(金) 午後 受付：13時～15時00分
	午後			織田・鹿大医師		織田・鹿大医師	



JRの場合

JR指宿枕崎線に乗車頂き、指宿駅で下車して下さい。
指宿駅から山川行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」(約10分)で下車して下さい。
当院の正面玄関前に停車します。

バスの場合

JR鹿児島中央駅前(鹿児島市)から山川橋行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」で下車して下さい。当院の正面玄関前に停車します。

自動車の場合

鹿児島市からは、産業道路を進んで国道226号線を山川方面へ進んで下さい。
指宿医療センターは国道沿いにあります。

- 受付時間 午前8時20分～午前11時00分
- 診療時間 午前8時30分～午後17時15分
- 休診日 土・日・祝祭日・年末年始 ※急患の方は随時受付いたします。
- 電話番号 0993-22-2231

発 行：独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター
〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町4145番地
T E L：0993-22-2231 (代表)
F A X：0993-22-2772 (地域医療連携室)
U R L：https://ibusuki.hosp.go.jp
印 刷：株式会社陽文社